

議 事 録

件 名	第 26 回自殺予防対策委員会	
日 時	令和 4 年 5 月 23 日（月） 15 : 00 ~ 16 : 05	
場 所	久留米市役所	
出席者	委 員	内村委員長、大治副委員長、寺崎委員、樋口委員、棚町委員、石井委員、漆原委員、赤木委員、吉村委員、大下委員、清水委員、新谷委員、田中委員
	事務局	伊藤主幹、近見補佐、中原主査、黒岩（保健所保健予防課）
欠 席 者	別府委員、岡村委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	<p>1. 報告事項</p> <p>（1）今後の主なスケジュールについて</p> <p>（2）セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について</p> <p>2. 協議事項</p> <p>（1）2021（令和 3）年度実績及び 2022（令和 4）年度方針（案）について</p> <p>（2）再々認証事前指導のプレゼン資料（案）について</p> <p>（3）広報啓発について</p> <p>3. その他</p> <p>（1）合同対策委員会におけるワークシートについて</p>	
質 疑	<p>【開会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の主なスケジュールについて <p>質疑応答はなし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について 	
委 員	①	セーフコミュニティ実態調査「問 23. あなたは、これまでの人生の中で、自殺したいと思った又は自殺未遂の経験はありますか」に 2.2%が「自殺未遂の経験がある」と回答している。久留米市の人口が約 30 万人と考えると、約 6 千人の市民が自殺未遂の経験があるという計算になる。これは全国と比較して高い数値なのか。
事 務 局		全国の調査等を確認して改めて回答したい。
委 員	①	かなり高い数値なのではないかと思う。自殺未遂の経験がある人だけで 6 千人いて、さらに自殺で亡くなった人（自殺既遂者）を含めるともっと多くの人が自殺を図っているということになる。 久留米市では年間約 50 人が自殺で亡くなっている。全国的にも自殺者数が増えている中、久留米市の自殺者数も増加に転じている。この状況を重く受け止めないといけないと思う。

議 事 録

<p>委 員 長</p>	<p>ここでの「自殺未遂」はかなり広い範囲での「自殺未遂」が含まれているのではないかと思う。「自殺未遂の経験がある」と回答している人の中には、手首をリストカットして、救急搬送される状況までにはなかったという人も含まれているのだろうと思う。</p> <p>2.2%という数値については、全国と比較してどうなのか確認をお願いしたい。</p>
<p>副 委 員 長</p>	<p>セーフコミュニティ実態調査「問 21. あなたは、もし、ご自身がこころの病を感じたとき、どの専門窓口を利用したいと思いますか」について、21.3%が「かかりつけ医の医療機関（精神科や心療内科等を除く）」と回答している。久留米医師会はかかりつけ医・精神科医連携の事業を強く進めてきたところだが、この数値をどう評価しているか。経年的に見て増加しているのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>前回調査時のデータが手元にないため経年的にみてどうかはすぐに回答ができない。かかりつけ医・精神科医連携事業に平成 22 年度から取り組み、市民にとって身近なかかりつけ医への受診を勧めていることから、一定周知が行き届いている結果ではないかと理解している。</p>
<p>副 委 員 長</p>	<p>「精神科や心療内科等の医療機関」との回答も 47.4%と高い。精神科受診は心理的にハードルが高いと思うので、この数値はかなり嬉しい結果である。</p>
<p>委 員 長</p>	<p>久留米市は 40、50 歳代の男性の自殺者が多いという特徴がある。さきほどの項目で「精神科や心療内科等の医療機関」と回答している割合は全体で見ても高いが、年代別に見ても 40 歳代の男性が高くなっている。また、問 20. 「自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である」に「そう思う」と回答している割合も、40、50 歳代の男性で高い。このことから、40、50 歳代の男性は、自殺を防ぐことのできる社会的な問題であると認識しており、かつ、精神科受診が必要だと理解しているにも関わらず、自殺が多いという現状があるということが言える。既に取り組んでいるところではあるが、さらに、相談しやすい、受診しやすい仕組みづくりを進めていけば、自殺を防ぐことが出来るのではないか。</p> <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021（令和 3）年度実績及び 2022（令和 4）年度方針（案）について 質疑応答はなし ・ 再々認証事前指導のプレゼン資料（案）について
<p>委 員 長</p>	<p>人口動態統計に基づく 2021 年の自殺者数が出るのは 9 月上旬とのことだったが、警察庁の統計ではどうだったのか。減っているのか。</p>

議 事 録

事 務 局	警察庁の統計では、2020 年が 70 名だったのに対し、2021 年は 62 名と減少している。
委 員 長	全国の自殺者数はどうだったのか。
事 務 局	全国についても、前年比－74 名と減少している。
委 員 長	全国については、女性の自殺者数は増えているが、全体では減少しているということか。
事 務 局	そのとおりである。
委 員 長	久留米市でも、全国同様、女性の自殺者数が増えているのか。
事 務 局	増えていない。
委 員 長	子ども・若者の自殺についても、全国では増加しているということだが、久留米市ではどうか。20 歳未満の自殺死亡率をみると、2018 年が 13.69 と高く、その後減少しているようだが。
事 務 局	人口 10 万人あたりの自殺者数を示す自殺死亡率で見ると、2018 年が突出して高いように感じるが、自殺者数の内訳としては、2018 年は 7 名、2019 年 2 名、2020 年は 3 名であった。
委 員 長	全国に比べると久留米市では子どもの自殺が増加していないということのようだ。学校教育課から何か意見はあるか。
委 員 ②	様々な家庭環境の子どもがいる中、学校では毎月アンケートを実施している。子どもたちの状況を出来るだけ早くキャッチし、未然に防いでいこうと積極的に取り組んでいるところ。
委 員 長	久留米市では、子どもたちが SOS を出すことが出来るよう、様々な取り組みを進めている。このような取り組みの成果が出ているということか。
事 務 局	全国の動向とは異なり、久留米市の子ども・若者の自殺が増加していないということについては、学校や関係各課の取り組みの成果とあわせて示すことが出来るよう整理していきたい。

議 事 録

<p>委 員 長</p>	<p>久留米市についてはさきほども触れたように、40、50 歳代の男性の自殺者が多いという現状がある。自殺を防ぐことのできる社会的な問題であると認識しており、かつ、精神科受診が必要だと理解しているにも関わらず、相談することにためらいを感じているというデータが示されていた。自殺予防対策委員会の取り組みとしては、やはりこの40、50 歳代の男性の自殺をどう防ぐかが課題となる。</p>
<p>副 委 員 長</p>	<p>2020 年に自殺者が増加に転じているのには、コロナが影響し経済的に苦しくなった、学校が休講になり孤立してしまった、テレワークの増加により家庭内不和が生じた等、コロナの影響があるのではないかと推察することが出来る。自殺者の増加がコロナの影響であることをより直接的に示すことの出来るデータがあるのであれば、資料に追加した方が良いと思う。全国や他国と比較することが出来れば、より可視化することが出来るのではないか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>そのようなデータがあるか確認し、可能であれば追加したい。</p>
<p>委 員 長</p>	<p>コロナ禍においては、経済的な問題、家庭内の問題が増加しているというデータがある。テレワークが増加したことにより、妻が夫の昼食を作らなければならなくなったり、飲食店での飲酒の機会が減ったことで、夫婦が家庭でともに過ごす時間が増えたりといった状況が、家庭内の問題の増加の背景にある。そういった家庭内の問題が生じている矛先が、子どもへの虐待や女性へのDVなど、家庭における弱者へと向いてしまい、全国における子どもや女性の自殺者の増加につながったということが言えるのではないか。</p> <p>久留米市においてもコロナの影響であることを示すことが出来るデータがあるのか確認していただきたい。</p> <p>・ 広報啓発について 質疑応答はなし</p> <p>【その他】 ・ 合同対策委員会におけるワークシートについて 質疑応答はなし</p> <p>【開会】</p>